

第61回車座集会意見交換内容（高津区）

- 1 開催日時 令和5年10月20日（金） 午前10時00分から午後12時00分まで
- 2 場 所 橋出張所
- 3 参加者等 参加者17名、傍聴者等4名 合計21名

<開会>

司会：それでは定刻となりましたので、ただいまから第61回車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます高津区長の高橋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の車座集会は、「つながる！橋地区～SDCでつながりづくりを加速化～」と題して、新規住民の地域への参加に課題を抱える橋地区において、若年層や居住歴の浅い住民と地域で活動する事業者・団体をつなぐとともに高津区SDC（ソーシャルデザインセンター）の活用を進めることで、地域への参加と新たなつながりづくりを加速化することを目的に、市長と参加者の皆さんで意見交換を行っていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、福田市長からご挨拶申し上げます。市長、お願いいたします。

<市長挨拶>

市長：改めまして皆さんおはようございます。今日は車座集会に御参加いただきありがとうございます。

61回もやっているんですけど、僕の記憶の中では、平日の午前中にやったというのはあまり記憶になくて、お忙しいところ御参加いただいて本当にありがとうございます。

さっき雑談をしていたんですけども、その中でちょっとぽっとひらめいたものがありまして。ハーバード大学で、世界中の調査のうち最も長期にわたってやっている研究というのがあるんですけど、85年間ずっと同じこと、追跡調査をやっている、それは、人は何を以て幸福を感じるかという調査なんです。

2,000人を対象にしてずっとやっているんですけども、結果、どうだったかという、地位だとか、名誉だとか、経済的なものというのは全く関係ないということが分かって、何が1番人を幸福にさせるのかという、身近な人とのつながり、それが最も幸福感に影響を与えるというのが、この85年間、世界で最も長い追跡調査をやっている中での結果ということなんです。

私は、川崎市を最幸のまちに、ということで、最も幸せなまちにと言っていますが、その幸せは人それぞれだと思いますが、つながりのないところに幸せはないということは、これはもう明らかだと思っております。

そういった意味では、それこそ橋地区は、1,300年前から川崎市の中心にあったところですから、1,300年前から住んでいる人といったら言い方は変ですけども、昔から住んでおられる方、あるいは今日引っ越してこられて、橋地区の住民になる方もいらっしゃる。そういう人たちがどういう形でも、ここにいて幸せだなというふうに感じるの、何らかのつながりがしっかりとあるということがとても大事だと思っています。

そんな中で今日お集まりいただいている方というのは、地域の中でいろいろな活動をされている方たち、そこの方たちが重なり合っとか、一緒につながり合っとか、やるということによって、今まで参加できていなかった、つながりがなかった人たちも巻き込むことができるのではないかと、今日の趣旨だというふうに理解をしています。すばらしい活動をされている方たちばかりだというふうに思いますので、今日は忌憚のない意見交換をさせていただいて、そして、ただ話ただけということじゃ

なくて、その結果が、確実に、具体的に何かが進むような形にしていきたいというふうに思っています。
今日はどうぞよろしくお願いいたします。

〈開催趣旨・進め方の説明〉

区長：続きまして、開催趣旨と進め方を説明させていただきます。

先ほど申し上げましたとおり、本日のテーマは「つながる！橘地区～SDCでつながりづくりを加速化～」でございます。

この橘地区が、「長く住む人も新たな住民も隔てなくつながるまち、地域で何かを始める人をみんなで応援するまち」になるようにと考えているわけですが、新たなつながりづくりを促す、つながりづくりを加速化すると言っても、なかなか目に見えにくいものです。

そこで本日は、「ただ意見を出して終わり」とならないよう、目に見えるプロジェクトとして実行していくことを目指し、「気軽に立ち寄れる場」、「多世代が参加できる機会」、これらについて具体的な意見交換を進めてまいります。

ここで進め方について御説明いたします。

まず、日ごろから橘地区を歩いて、地域の皆様とお話を通じて情報収集しております高木橘出張所長から、橘地区の現状と課題についてお話しさせていただきます。

この課題について、皆様と共有認識を持ったうえで、次のプロジェクトづくりに進んでまいりたいと思いますので、少し皆様の感想なども伺いたいと思います。

そのあと、2つのグループに分かれまして、Aグループは橘出張所の地域化、Bグループは橘公園の交流拠点化を目指し、アイデアを出し合いながらプロジェクトを練っていただきます。

それぞれのプロジェクトが形になってきたところで、会場全体で共有し、さらに良いものとなるよう意見を出し合って内容を深めていく、という流れでございます。

〈参加者紹介〉

区長：本日の副題は「SDCでつながりを加速化」としてしています。SDC、ソーシャルデザインセンターについて、まだ耳慣れない方もいらっしゃるかもしれませんが、川崎市のコミュニティ施策の基本的考え方の軸となる、つながりづくりを支援する機能でございます。高津区としましては、決まった組織や場を設けるのではなく「まちづくりに関わる区民同士や団体、事業者のつながりづくりの仕組み」そのものを、高津区SDCと位置付けています。

本日は古くからお住まいの方、子育て中の方、地域で活動する団体の方など、多様な方々にお集まりいただいています。SDC相談窓口の運営事業者や実際に地域でつながりを活かしてまちづくり活動をしていらっしゃる方にもお集まりいただいていますので、御紹介させていただきます。

お時間の関係で簡単な御紹介にはなりますが、私がお名前をお呼びいたしますので、手を挙げていただきますようお願いいたします。

グループAの皆様からです。

高津区市民健康の森を育てる会代表 宮寺 貞文様

橘小学校・中学校にお子さんを通学させていらした 北見 紀子様

子育て世代の保護者の方として 酒井 由希様、飯田 一樹様

主任児童委員 小冷 静江様

株式会社カリヨン・カンパニー代表取締役 平松 あずさ様

高津区SDC相談窓口の運営事業者である NPO法人高津スポーツクラブSELFF

事務局長 鈴木 章弘様

次に、グループBの皆様です。

橘公園Park-PFI事業者である ピークスタジオ一級建築士事務所 共同代表 藤木 俊大様

株式会社川崎フロンターレ 事業本部 地域連携担当マネージャー 岩永 修幸様

子育てグループの方として 円子 智子様、坪内 かおり様

橘公園で高津公園体操を行っていらっしゃる 新実 令子様

橘地区の農業従事者の方として 森 清行様

子母口北町会会長 遠藤 勝太郎様

皆様、本日はよろしくお願いたします。引き続き、行政からの出席者を紹介いたします。

福田紀彦川崎市長でございます。

勝野 隆高津区副区長です。

高木克之橘出張所長です。

星 和明企画課長です。

竹下 研教育委員会 文化財課長です。

大平 敏江地域ケア推進課長です。

岡部 慶子生涯学習支援課橘地区担当課長です。

参加者紹介は以上となります。それでは、ここからの進行は福田市長にお願いしたいと思います。

市長：それでは、橘出張所の高木所長から、橘地区の現状、つながりづくりに関する課題認識について、説明をお願いします。

〈橘地区の現状と課題について〉

高木所長：皆さん、おはようございます。

この4月に橘出張所に着任しました高木と申します。どうぞよろしくお願いたします。

まだまだ経験も浅くて、長きにわたりこの地元で根差して活動されている皆さんを前に、大変おこがましいんですけども、私が見る橘地区、この地区のつながりづくりに関する課題などについて、少しお時間をいただきまして、お話をさせていただきたいと思っておりますのでお願いたします。

この橘地区ですけれども、10月1日現在で4万5,000世帯、9万6,000人の方が暮らしております。65歳以上の高齢化率ですけれども、これは、市全体が20.2%のところ、21.4%と若干進んでいる状況です。ちなみに高津地区で言うと17.4%ということで同じ高津区でもお住まいの年齢層が大きく変わっていると思っております。

あと、出生率につきましては、川崎市全体で0.72%のところ、橘地区では0.67%となっており、高津地区の0.77%からもちよっと低い状況となっております。

次に、地域の魅力や特徴についてですけれども、夏でも涼しいたちばなふれあいの森ですとか、あるいは春日台公園、橘公園など、豊かな自然がたくさんあります。農業が盛んですよね。四季折々の新鮮な野菜を直売所で買って味わえるのも大きな魅力の1つというふうに思っています。イチゴ狩りなど観光農園として、新しいチャレンジを始めている農家の方もいらっしゃいます。ちょっと歩くだけで柿やみかんの木をたくさん目にするかと思っております。大変心を和ませてくれて、私はすごく幸せに感じているところ

次に史跡ですけれども、川崎市で初めて国から指定された橘官衙遺跡群、やまとたけると、おとたち

ばなひめが祀られている橘樹神社ですとか、子母口の富士見台古墳ですね。また貝塚として、市内でただ1つ保存されているという子母口貝塚もありまして、歴史と自然が調和する地域だと思っております。

地域のつながりとしましては、44回目となりました橘ふるさと祭り、この間の親子運動会も雨で中止になってしまいましたけれど、こちらも55回を数えます。また、来年3月の防火防災訓練、こちらは47回目を迎えるところです。子どもたちに、もっと地元を知ってもらおうと開催するウォークラリー、来月11月にあるんですけれども、これにつきましても36回を数えるところでございます。

どれも大変歴史のあるイベントでございまして、言い方を変えればそんな前から取り組み、時代に合わせながら内容を変更してバトンをつなげてきたというものでございまして、これだけのイベントを毎年開催できるのも、この橘地区の町内会、自治会の結びつきが非常に強くて、多くの皆さんに支えられているからこそ、と思っております。各町会でもお祭りですとか、防災訓練など、各種のイベントが活発に行われているといったところでございます。

次に、橘地区の課題でございますけれども、町内会、自治会の皆さんの結びつきが強い一方、新しくこの地区に転入されてきた方、町内会、自治会に入会されていない方に、きちんと地域の情報ですとか、行政の取組をお伝えできているのか確信が持てないといった部分も正直でございます。

御高齢の方や特に子育て世代の方など、保護者同士のお付き合いはあるかとは思いますが、外に出て地域のお付き合いがあるのか、この地区で新しいつながりをつくれているかということ、古くからお住まいの方の結びつきが強過ぎてちょっと飛び込めないといえますか、気が引けてしまうといった声も聞かれます。実際、町内会、自治会も新しい住民の加入が少なく、役員のみ手探しにも苦労されているといった状況でございます。

こうした課題を踏まえまして、橘出張所長として目指す橘地区の姿、これを考えたときに、町会に入っていない方も、いる方も、また新規住民の方も、御高齢の方も、障害をお持ちの方も、あらゆる方が世代を超えて参加しやすい地域交流の場所や機会があって、防災や防犯、子育て、健康など隔てなく助け合っていける地域にしたいと思っております。

その地域交流の場所としましては、橘地区は広いんですけれども、まずはこの橘出張所、あと橘公園、この2つの場所を拠点としてもっと活用できないか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

どんな場所だったらいいか、どんな機会があればつながれるか、これを話し合ってください、実際につくっていく過程でもつながりづくりを楽しめたらというふうにも思っているところです。

来年春の橘樹官衙遺跡群歴史公園の整備ですとか、橘処理センターのリニューアル、橘公園の運営の方法の変更など、この地区に新しい風が吹いているかと思えます。出張所も来年4月から、窓口サービスを提供する拠点から、ともに支え合う地域づくりを推進する身近な地域の拠点として、地域振興業務や地域市民活動支援業務を強化してまいります。

こうした機会をきっかけに、元気で明るい橘地区を今以上に実感できて、そうした動きを加速できるよう、ソーシャルデザインセンターのお力もお借りしながら、もちろん我々行政職員の意識改革も行いながらですね、汗をかいてまいりますので、誰もが気軽に集い、多様なつながりを育む地域の居場所となるよう、本日は忌憚のない御意見をお願いしたいと思えます。よろしく願いいたします。

市長：はい、ありがとうございました。

どうでしょうか、所長の認識は。皆さん、まあそういうことかな、という感じでしょうか。データで見ると高齢化は進んでいる、出生率は平均よりも低いということでもありますが、地域のつながりというのは伝統的に非常に強い地域だということで、長年にわたっていろいろなイベントというのが継続的になされていることが非常にいい特徴だと。

一方で、なかなか新しい人たちが入り込めないのではないかという懸念もあるということなので、大

体こういう認識ですかね、皆さん。ありがとうございます。

そんな中でちょっと感想をいただければと思うんですけど、北見さんにお伺いしたいのですが、子ども会でも御活躍ですし、主任児童委員もしていただいて、小中学校のOB、子どもさんを通わせておられたということで、いろいろ感じるころはあると思うんですけど、いかがですか。

課題認識とか、今、所長が言ったことに対してでもいいですし、この地域の課題、御自身で感じておられるようなことがあれば。

北見さん：私も、結婚を機に、こちらに来て25年ですけど、私はもともと川崎市の幸区なんです。自分が住んでいたところに比べたら、住みやすい。自分のところが住みにくかったわけじゃないんですけど、すごく動きやすい、いろいろなところに行きやすい。

要は出張所も近かったし、区役所も自転車で行けるような距離ではあったし、うちはたまたま昔から住んでいるので、もともとそのつながりもあったんですけど、やっぱり最初は地域に入りにくい、そこに入り込もうと思ったときに、子ども会が1番だなと。というのは、私は幸区で自分が子ども会育ちだったので。

市長：なるほど。

北見さん：なので、そこからいろいろと。今これだけ私の周りで私を助けてくださっている仲間というか、先輩方がいるというのは本当にそこがきっかけでした。今の答えになっているかどうか分からないですけど。

市長：いやいや、ありがとうございます。北見さん御自身も子どものころ、子ども会の活動をされていたと。

北見さん：1年生から子ども会に入っていて、私の地区は、女子はドッチボール、男子は野球だったので、ドッチボール大会をいろいろなところで1年に1回開催されていて、それをやっていたんですね。今こちらに来て、ドッチボール大会があるじゃないですか。自分はドッチボール部に入っていたんです。この橘地区は、子ども会でやっているのが、バドミントンと野球なんですけれど、その活動がちょっと違うなと思って、我が子には、バドミントンを子ども会に入っていて楽しんでもらいました。

市長：すごく御自身の川崎市内での在任経験だとか、活動というのがあったからある意味で能動的に子ども会にも……。

北見さん：何かそういうものだと思って、という感じですね。

市長：北見さんでも、ちょっと入りにくい雰囲気があるんじゃないかというふうなお話をされていましたが。

北見さん：ありました……。

市長：市外から入ってきた人というのは、かなりハードルが高いと思われませんか。

北見さん：もっとですね。もうちょっとかみ砕いて、こういうところなんだということをやんわりやんわり

伝えていかないと。今の方々は、話を受けてしまうと役員をやらなければいけないとか、1番は役員なんですよね、それをやりたくない。やらなくていいなら入りますという方は、それなりにいらっしやるので。

市長：なるほど。ありがとうございます。

北見さん：でも、そこも代替わりはしていかなきゃいけないと思うので。

市長：もう少し緩やかなつながりみたいなものも必要？

北見さん：と思います。入り口をもうちょっと。

市長：もうちょっと幅広でいったほうがいいと。ありがとうございます。

遠藤さんは、子母口北町会の会長さんとして、長くお務めいただいておりますけれども、先ほど所長のほうからもありましたし、これは全市的な課題でもあるんですけど、町会の役員の高齢化だとか、なり手不足だとか、あるいは若い世代が入ってこないとかといろいろ課題はあると思うんですけど、その辺りの課題認識はどう思っておられますか。

遠藤さん：はい、子母口の遠藤です。

子母口というのは、御存知のように古いまちで。昭和20年頃は、4、50の集落だったんです。今は、1、600の世帯があります。今、北見さんがおっしゃってましたように、やっぱり役員のなり手がいないというのはどこでも同じだと思うんですけど、役員になってくれといっても多分なりません。忙しいとって、みんな断られちゃいます。私が心がけているのは、あえて、イベントだけに参加してよ、と誘います。運動会ですとか、盆踊りだとか、餅つきだとか、いろいろなイベントがあります。そのイベントだけでもいいから参加してよと誘います。そうすると、それだけでも来てくれるんです。

それからもう1つ肝心なことは、せっかく来てくれても、その人の居場所をつくってあげないといけないんですよ。来て、ただボケっとしていて、何だよと帰っちゃうんですよ。だから、あえてその人にいろいろな用事を頼みます。これやって、あれやって、と。そうすると、やるんですよ。そういうところから少しずつ町会に興味を持っていただいて、将来役員になってほしいな、私はこれを心がけています。

市長：すばらしい会長さんですね。取りあえずまずは緩やかに巻き込むというか、イベントに合わせて来ていただいて、そして何か参加してもらおうということですね。実際に体を動かしてもらおうことによって意識づけをしていくということが大事だというお話をいただきました。

さあ、地域の課題認識について何か一言、ここで言うておこうかという方はいらっしやいませんか。

まだ若干タイムスケジュール的には時間があるので、どうぞ、どなたか。鈴木さん、いかがですか。

鈴木さん：はい。地域の課題認識というところではいきますと、全体的なイメージでいくと、高津区は、それぞれ地域で活躍されている団体さんがすごく多いという印象があります。

ただ、その中で、やはり横のつながりが若干薄いのかなというところもあったりして、団体と団体をつなげることによって、もっといいものが出来上がるという強い印象を持っています。

私は高津区の諏訪というまちに25年住んでいます。橘地区は、隣町といいですか、若干上り坂が多いイメージがあったりするんですけども。高津区のイベント等は昔ながらのレトロな雰囲気のものが大変多くて、遠藤町会長がおっしゃったような形で、参加してどんどん次につなげていくことが大切なのかなと思っております。

市長：ありがとうございます。素晴らしいコメントをいただきました。

それぞれ皆さんいい活動をされているんだけど、横のつながりがちょっと薄いかなというふうな発言ですよ。これ、実はどこの地域でもそうなんです。これ、車座集会をいろいろな地域でやりますでしょう。そうすると、地域課題に対して皆さんすごく真剣にやられているんです。

例えばある区では、駅前の清掃活動をやっているんだけど、実は町会でもやっているし、商店街もやっているし、ボランティア団体もやっているし、青少年団体もやると、同じところを1か月に何回かやるんですよ。すごくバッティングしちゃったりしているんですよ。これはみんなでうまく分担して、あるいは一緒にやってみるみたいな話にもなったことがありますね。

だから、実は隣でやっていることを知らなかったり、一緒にやればもっと輪が広がったりというのは、実はどこの地区でもある話で、鈴木さんからいい課題提起をいただいたんじゃないかなと思います。

どうでしょう、藤木さん、今うなずいていらっしゃるんですけど、そういうことを感じますか。

藤木さん：そうですね、僕は新城駅周辺で設計事務所をやっていて、まちづくり的な活動にちょっとずつ関わって8年なんですけれども、それでもやっぱり今日ここにいらっしゃる方でお会いしたことがあるのは、遠藤町会長に御挨拶に伺ったぐらいで、ほかの方はほとんど初めましてか、知り合いを通じてつながったことがあった方なので、横のつながりというのは、8年やっても、まだまだ全然つくれていないということを感じています。

市長：ありがとうございます。車座集会をやると、実は初めて知った、こんなにやっていたんですね、という横のつながりが車座集会の場合でできるという、当初は想定していなかった効果もありまして。

森さん、いかがですか。森さんは、小学生の中では超有名な人ですよ。いろいろな子どもたちや地域をつないでいただいていると思うんです。御自身のプロフェッショナル、農家としての活動から、いろいろなつながりをつくっていただいていると思うのですが、課題をあえて言っていれば。

森さん：そうですね。私も農家という家柄、生まれも育ちも全てここで完結している人間で、いま48歳ですが、50年近く暮らしてきた中で、所長がおっしゃったとおり、私が子どものときより、つながりがどんどん薄くなっていっている中で、地域の小学校で野菜作りを教えたり、今は、子母口、久末、橘小学校にも行ったりして、そういうことをしています。

子どものときから、地域の人間はこういうことをやっているんだよということを教えることで、地域を大事に思ってもらって、それが将来的に地域を守っていくという気持ちになってもらえればという思いも少しありながら、今活動させていただいて。あと役員のなり手、子ども会、町会、いろいろな組織の中でやってくれと言ったときに、今は共働きが当たり前で、なかなかそんな時間が取れないというのが断り文句というのは当然なんですけど、私もここ数年でPTA、久末と東橘のほうをやらせていただいて、そんな中で、もともとは地域の方ではない方を巻き込んで、私が地域を紹介することによって地域の魅力に気づいてくれて、子どもが卒業して大きくなったときに町会に興味をもってくれる。

子ども会で活動しようかなという取組を、私なりに関わらせていただいて、将来、子どもたちはもちろんですけど、子育て世代の方々にこういう地域性のいいところがあるんだよ、お祭りはこういう裏事

情があるんだよというバックボーンをお話すると、「へえ、そうなんだ、ただ行っていただけだけど、いろいろな人たちが頑張ってるからこうやって子どもたちが楽しめるんだ」と。そういうことを教えてあげると、興味を持ってもらえる。私の地域ではPTAが終わったお母さん、お父さん方がこの地域に還元しようという動きになってきたかなと。今後もこういう形でやっていければと考えております。

市長：ありがとうございます。PTAの役員をやられている保護者の方には、意外と新住民の方も結構多くないですか。地域のことをあまりよく御存知ない方も中に結構いらっしゃいますよね。

森さん：本当に市長がおっしゃるとおりで、地元の方というのは薄まってしまって、ほとんどいないという状況で、その中では、さっきおっしゃった、何も知らないで入って、盆踊りをやるんだ、運動会をやるんだ、ふるさと祭りがあるんだ、というときに、誰がどうやっているかを知らずに、ただ子どもが行きたい、遊びたい、楽しみたい、じゃあ、行ってみようかといっって、上辺だけの参加はしてくれるんですけど、実際にやっている方はこういう方々なんだよ、地域のこういう方々とか、身近で言えばそのPTAの元会長さんがやっているよとか、もちろん先生方、前の校長先生なんかOBになったときも来てくれてやっているんだよということをお話することによって、何かぐっと近くなるみたいですね、入りやすいというか。

先輩方も、地元ではない方が、今こういう形で飛び込んでやってくれているんだよと、何でそうなったかということをお話すると、現役の方々も、じゃあ私たちにもやれることがあるのかな、というふうに感じてもらえるので、非常に今、手応えを感じています。

市長：いや、本当に掘り起こしていただいていますよね。遠藤会長の話もそうですし、今の森さんの話もそうですけれど、なるべく間口を広げて、そこを伝えることによって地域人材、新たな人材を発掘して下さっているような気がいたします。

皆さんの意見で温まったところで、今からちょっと席をつくらせていただいて、後半戦に移っていきたいというふうに思います。では、よろしくをお願いします。

〈意見交換を通じたプロジェクトづくり〉

市長：準備はよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

それでは、先ほどの課題を踏まえてということですが、ここから具体的な話に入っていこうと思います。橘出張所の地域化について、それから、橘公園の交流拠点化について、グループでお話をいただきたいと思います。

意見交換の進め方については、区長から説明をお願いします。

司会：はい。橘出張所の地域化については橘出張所長を、橘公園の交流拠点化については企画課長をファシリテーターとして進めていただきます。45分程度を目安にアイデアをまとめていただきまして、その後、発表していただきます。その後、全体で意見を出し合って、より具体的なプロジェクトにブラッシュアップしていただきたいと思います。

皆さんが発信機会を持てるよう、発言は簡潔にお願いできればと思います。よろしくをお願いします。

市長：はい、じゃあ、スタートでよろしいですね。では、よろしくをお願いします。

(プロジェクトづくり)

市長：はい、ありがとうございます。それではお時間をちょっと経過しましたので、それぞれ、Aグループ、Bグループの代表の方に発表をしていただきたいと思います。まずはAグループから行きましょうか。

市長：じゃあ、鈴木さん、発表していただけるということでありがとうございます。どうぞ、前に来ていただいて、議論の内容を。

鈴木さん：Aグループのほうは、ポストイットがこんなにいっぱい、たくさん御意見が出まして、橘出張所にはまだまだ魅力があるということを感じました。

特に、子育て世代、まだこのまちを全然知らないという人たちがいっぱいいるんじゃないかと。逆にその地域に根づいて、ずっと橘地区で生まれ活躍している方々も多くいらっしゃるということで、そういった人たちのつながりの場を、ここ橘出張所でできないものだろうか、という話も出てまいりました。

あと、関わる人たちの中では、若いママさん世代を中心に、ママの力はものすごくあるというお話もあり、ママさんたちの力を借りて、出張所を地域でもっともっと活かしていく場所づくりができるんじゃないか、そのような話もございました。

何をやるかということに関しては、皆さんの頭の中にアイデアがばっとあるんですけども、ちょっと僕の話を見せていただくと、高津地区のほうでSDC、ソーシャルデザインセンターの相談窓口を行っております。こちらを橘出張所でも、年に何回か一緒にやらせていただいて、SDCを盛り上げていくという形も取れたらいいのではないかと考えております。

あと1つ、僕もちょっと気になったのですが、トイレを洋式にというものがあまして、トイレがきれいだと、本当に住民の皆さんもコミュニティスペースとして使いやすいんじゃないかなという意見もありました。

簡単ではございますけど、発表とさせていただきます。ありがとうございます。

市長：ありがとうございました。すばらしいですね。目指す姿、ふらっと入れる雰囲気、逆に言うと、今あまりふらっと入れる雰囲気ではないということですよ。いろいろな人たち、関わる人たち、さっき鈴木さんに言っていただきましたように、ママさんだとか、あるいは、PTA、地域教育会議、橘小中の子どもたち、仕事をしていて地域をよく知らない人たち、いろいろな方に関わってもらいたいというお話ですね。

本当に多くの人たちに関わってもらって、やりたいことはたくさんあると。非常にポテンシャルがある、まだやれていないけど、これだけのことができるんだという意見がたくさん出たということですね。ありがとうございます。

鈴木さんのところのコメントに補足があるという方はいらっしゃいますか、まずAグループのほうで。じゃあ、所長から何か補足ありますか。

高木所長：本当に、たくさん御意見をいただきまして、ありがたい、うれしい限りです。

まず、今すぐにできることとして、トイレの場所が分かりにくいという話もありましたので、そういった案内、取りあえずはゴミ拾いだとかも含めて、いろいろ職員もできる限りのことをやっていきたいなど。それによって、少しずつ皆さんにもっといろいろ使ってもらえるかなと考えていますが。いかがでしょうか。

市長：確かに、鈴木さんが大事だと言っていたトイレを洋式に、というお話、いろいろな人たちが来るためにはトイレというのはすごく大事ですよ。これは行政の課題だというふうに思います。ありがとうございます。どうですか、Bグループの皆さん、Aグループから聞いて。遠藤会長、どうぞ。

遠藤さん：先ほどからトイレの話が出ていますが、市長、トイレだけじゃないんですよ。この建物自体を変えてほしい。もう何年も経っているんです。

市長：47年目でございます。

遠藤さん：この場所がすごく使いやすいんですよ。これからいっぱい使おうとしています。建物のきれいさというのは大事ですよ、お金がかかりますけど。

市長：かかりますね。宮前区の向丘出張所というのが、実は建物は同等レベルに古いですよ。傍聴席の雛元さん、あれは何年目でしょうか。そろそろ50年ぐらいですか。

雛元課長：ここと1、2年しか変わらないです。

市長：そうそう、46、7年経っているところなんですけれども、去年、内装を改装しました。木質化もして、むちゃくちゃきれいになりました。この前、僕もお邪魔したんですけど、みんなが集まって、本当に地域の人たちが集まって活用する場に生まれ変わっています。

ですから、そういう意味では、さっき所長も言っていましたけれども、今後ここを使っていくに当たっては、一定の整理というのは必要だと思うんですよ。

だから、あまり先入観なく話してくださいというふうに言われていましたけれども、1階なの、2階の話なのということではなく、まずはどういうふうに使いたいかということ考えた上で、きれいにしていくというのがあるんだと思いますよね。

みんなで使っていただいて、ふらっと入ってこんなこともできる、というようになると、トイレの整備も必要だよ、とか、もう少しきれいにしなくちゃいけないかもねという話が出てくるんじゃないかなと思うので、そういう順序をたどりたいというふうには思います。はい、ありがとうございます。

Bグループ、いかがですか、ほかに。

はい、では、続きましてBグループに行ってみましょうか。

星課長：Bグループは、橘公園をこうしたい、というようなことで話をさせていただきました。目指す姿について、こちらで考えていたのはイベントかなと思っていたんですけど、平日の午前中も賑やかな場所を目指したいですとか、みんなで何か体操とか、活動している人たちと、ふらっと来た人が入りやすい雰囲気をつくるための、「おいで」といった声かけをし合いたい。そういう場所がいいなど。

いつの間にか一緒に遊べるような場所がいいですとか、親子で気軽に参加できるような場づくりを目指したいといった御意見もありました。

また、子どもが1人で放課後に遊びに行っても楽しいというようなどころですとか、お互いが自由に利用できるような、共存できるようなイベント、例えば、グループでゲートボールで使っていたりしても、個人の方が一緒に、お互いに自由に利用でき合うような場所を目指したいというようなどころで、日常の在り方で、もっと賑やかになる場所を目指したいというようなどころの御意見が多かったです。

関わる人たちなんですけれども、犬の散歩の方たちというのが夕方とかにたくさんいらっしゃると、犬の飼い主さんのコミュニティというのは結構大きくて、年齢とかに関係なく、いろいろな方が自由に話し合うような雰囲気もあるので、そういう方々も積極的に携わっていただきたいですか。あと、身分の分かる人がいるというフロンターレさんの拠点にもボランティアのスタッフがいるというような話を聞いたんですけれども—そういった公園のボランティアのスタッフ、遊びなんかを教えてくれるような方なんですけど、普通のおじさんが話かけちゃうと不審者案件になっちゃう場合もあるので、身分の分かる人が遊びを子どもたちに教えるとか、ボランティアスタッフになったらどうかというような御意見が出ました。「みんなが園長」というのも、身分の分かる人の案のような感じの、名前をつけるとしたらという話です。橘公園の園長バッチは、この辺のボランティアスタッフとつながっていくということですね。

また、町会さんが合同でいろんなイベントを企画したらいいのではないかなというような話。

あとは、今後も横のつながり、今日せっかくこの場で出会った横のつながりをもっとつくろうというようなところですか、今後も話し合っていきたいというような御意見も出ていました。

また、これは子母口北町会さんの運動会の話でしたっけ、子どもたちの中でSNSで発信し合って、たくさんお子さんたちが集まったという話もあって。盆踊りでしたっけ？ 場所も橘神社から子母口旭田公園のほうに変えたときに、600人だったのが6,000人に増えたという。そういった工夫もしたらいいのではないかなというようなことです。

何をやるかということについては、せっかくなので多世代が交流できるような昔遊びとするとか、あとは夢パークの話も出ていたんですけれども、子どもができないこと、やっちゃいけないことを少しでもなくしたらどうかということですか、こちらについては親子の方、未就学児の方なんか中心なんですけど、初めての外遊びについて、何か応援できればというようなところもございますし、イベントなんかをやるときでも、なるべく無料だと参加しやすいよねというお話もありました。

また、どこでやるかというのを考えなきゃいけないんですけれども、こどもの国の入り口なんかのところをイメージされているのかなと思うんですけど、道路に自由に落書きができるような、チョークで落書きができるようなものが、公園のどこかでも実現できると子どもたちは楽しいんじゃないかなというような御意見もありました。

また、今もたくさんやられているんですが、公園体操なんかをもっと広がっていけばというようなこともございました。

あとは、せっかく今日もみんな集まっているので何か大きなイベントをやっても面白いんじゃないかなというような御意見もございまして、カフェのところは、Park-PFIの事業者さんのカフェなんか提案があって、運営していきますよというお話がここに書かせていただいたところでございます。

全体としては、日常使いをもっと楽しく、というようなところで、今後も話し合ってきたというような感じで話合いが終わりました。以上になります。

市長：ありがとうございました。はい、星さんの意見につき足しありますでしょうか。Bグループ、森さん、どうぞ。

森さん：今おっしゃったとおりで、本当に何かイベントをやるのが手っ取り早いとは思ったんですけど、やはり身近にある公園として、毎日何かイベントをすれば人を呼ぶんでしょけれど、なかなか現実的じゃないところをカバーしながら、でもやっぱり毎日使えるような公園になってほしいということが皆さんの共通的な認識だと感じました。

それも全世代、もう生まれて間もない子から、お年寄りというか年配の方々も、常に集って毎日のように楽しく笑顔があふれるような公園になるといいなというのが、皆さんの認識としてあったと思いますので、あまりお金がかからないやり方なのかなというところもあるんですが、公園をきれいに整備してすごくお金をかけていただいているのもやはり地域として感じていますし、すごくきれいに明るくしていただいたことに対して、何かでお返しするような企画、イベント、やっていきたいというのは本当に皆さん共通で、何かをやろう、集まろうという気持ちが本当にあったこの会でした。

市長：ありがとうございます。すばらしいコメントを言っていただきました。僕も、先ほど、グループでのお話し合いを聞かせていただいて、ちょっと刺さった話が、先ほど森さんからもありましたけれども、イベントもいいんだけど、そういう賑わいもいいんだけど、日頃の日常使いという、地域の公園ということの趣旨というのもすごく大切にしてほしいというお話もあって、本当にそうだよなど。だから、ハレの日と日常というか、そういう賑わいと日常のところというのを、どう両立させていくかということが大事だなと。公園というからには、みんなの公園じゃなくちゃいけないので、そこは、配慮が必要なんじゃないかという御意見だと思います。

特に、やっぱり平日の午前中が、乳幼児のお子さんを含めて、子育てでちょっと疲れたなど、1人で子育てをしているんじゃないなくて、地域の人たちもいるし、同じ世代の人たちもいるし、何か共有できる場というのがあればいいなとか、あるいはちょっとおいで、おいでと、ほかのグループで何かやっていたら「こっちに入ってこない？」というちょっとした声かけというのがどれだけ大切かというのは、実はこっちのテーブルでも出ていて、すごくいい話だなというふうに。先ほど、小冷さんでしたかね、言われていたのが、地域の人から、子育て頑張っているねとか、小ざれいにしているねとか……。

小冷さん：そうですね。

市長：そういうような言葉が一言あると、頑張れる。テンションが上がるという。

小冷さん：頑張れました。うちは4人男の子だったのでとても大変で、本当にお金もなくて貧乏だったので、潰されそうな感じだったんですね。そのときに、私は市営住宅に住んでいたんですけど、今の私ぐらいの年の方から、よく頑張っているねとか、子どもらしい子どもだよねとか、ちゃんと洋服なんか小ざれいしているねとか、そんな言葉をかけてもらって、すごく頑張れました。

どうということのない言葉なんだけど、私は、それで頑張れました。4人男の子を白い靴下で通しました、頑張って洗濯をして。そうだ、小ざれいしていると思われているんだと思って、もう手が擦り切れても白い靴下を通しました。

市長：ありがとうございます。

小冷さん：すみません、ありがとうございます。

市長：小さいお子さんを育てているときに、ちょっと上の世代の人からそういうふうに言ってもらって励まされたということですよ。だから、それが地域の中でも、公園でも、そういう声かけがあったらうれしいよねというふうな話がAとBで共通していたなと思いました。

飯田さん、話し合いの中で、結構この地域はそういう声をかけてくれる地域だと思う、というコメントをしていただいていたんですけど、ちょっとご紹介いただけますか。

飯田さん：そうですね。私、子育て世代として今日呼んでいただいたんですけど、こちらに引っ越してきてからまだ間もなく、あまり地域の方々とながりがない中で、子どもの散歩とかには外に出なさいといけなくて、地域を歩いていたときに、全然知らない方々なんですけど、結構子どもにかわいいねとか、優しい声かけをしてくださる。ちょっとここに来るまでの間にもです。これまで幾つかのまちに住みましたが、この地域は優しい声かけをしてくれる方が多いなというのを感じていたんですね。そういった話をさせていただきました。

市長：ありがとうございます。すごく何か勇気もらえるというか、やっぱりこのまちはいいまちなんだなということを実感しますし、もっとその輪が広がっていくような仕掛けみたいなのが、公園であったり、あるいはこの出張所であったりするといった。

もう少し気軽に立ち寄れて会話が生まれたり、あるいはちょっと励ましてくれたり、褒めてくれたりとか、相談にも乗れたりとか、悩みを聞いてくれたりという場が、ここであったり、公園であったりというふうなところが必要なのかなということを、皆さんの御意見の中から受け止めさせていただきました。

何か補足などはありますか。円子さん、非常にいい御意見を言われていたので、みんなでシェアしていただくと素敵かなと。

円子さん：今3人の子どもを育てていて、1番下が年中さんなので、よく橋公園には行くんですけども、やはり子どもに1番そばにいる大人の孤独とか、不安とか、そういったものを少しでも周りが薄めてあげられるというか、そういう時間と場所が、橋公園にあればすごく子育てがやすく、そしてさっき最初のほうにも出ていた子ども会、そういった入会とかにもつながっていくのではないかと感じています。なので、ぜひそういうようにしていけたらなと思っています。

市長：ありがとうございます。だからやっぱり、子ども会にもつながるんじゃないか、声をかけられた人たちというのは、さっきの小冷さんも言われていた自分がそう言われたから今度は自分が声をかけてあげる立場になると。今それをやっているというふうなことを言われて、ああ、すごいなど。だから、多分そういうふうになんか温かく迎えられた方というのは、次にいい連鎖につながっていくんだろうと、そういうのを生んでいかなくちゃいけないという、そういう仕掛けをつくっていかなくちゃいけないと改めて感じました。

これ、みんなが園長、すごく面白いと思いました。橋公園の園長バッジをつけると。公園に園長さんがいるのはすごく面白いですね。確かに不審者に思われないバッジみたいなものがついていたら、PTAの皆さんがかけておられるような、ああいう安心できる大人が公園のところに何人かいてくれたら、園長さんもいて、ボランティアの方もいて、その人たちがおいでおいでをやってくださると。

新実さんがやっておられる公園体操、先ほどお話を横で聞いていたら、結構皆さん突然入ってきて受けていただけてるんですね。

新実さん：もう本当に自由で、お休みするのもオーケーです。テープレコーダーを使っているんですけど、それもうちの主人がたまたま電気屋なので、電気の配電盤に鍵をつけて、公園の倉庫の脇につけてもらって、誰でも出せるようにしました。お年寄りも、テープレコーダーを預けると責任感で寝られなくなっちゃうんですね。だから、回り番にしないで、もう誰でも出せるようにしたんですね。そうしたらもう、すごく皆さん気軽に来られるようになりました。

市長：何か保育園とも連携されてとかというふうな……。

新実さん：そうなんです。

市長：結構世代間交流をやっておられるんだなど。実は、僕、公園体操は結構クローズドな会で入ってはいけないのかなと思っていたら、意外とそんなことはないんですね。

新実さん：蟹ヶ谷保育園の子は、お手紙をくれたり、私たちも今度歌を歌ってお返ししたり、その後、みんなでお弁当を食べるとか、結構楽しく仲がいいんですよ。もういい方ばかりで。

市長：ありがとうございます。朝の9時半ぐらいからやられているんですよ。

新実さん：そうです。

市長：9時半からやられているということなので、まさにこの平日の午前中に行ったお子さんたちも、どうぞ、おいでおいでと行ってくださると。いい話だなというふうに思いました。各区で公園体操をやっていきますけど、何となく入っちゃいけないのかと僕自身がそう思っていましたけど、意外とそうなんですよ。みんなが少しずつオープンになっていくと、いろいろな連携ができる可能性を感じました。

さあ、藤木さんにちょっとお伺いしたいんですけれども、公園のPFIの事業者として、皆さんからこういう期待の声がたくさん集まっているんですけど、何となく今思っていることがあれば教えてくださいませんか。

藤木さん：そうですね、このPFIを受ける前にも、おとし1か月間社会実験をしていたので、平日の雰囲気とか、そういったものも感じてはいたので、日常的な使い方というか、日常でいろいろな人がつながっていく場にしたいというのは僕たちも思うところです。なので、プラットフォームというか、ベースみたいなものを一旦作りたと思っていて、その上に皆さんがやりたいこととか、どんどん乗せていって、いろんなことで活用していってもらいたいなことができたらうれしいなと思っています。まさに今日のタイトルのように、個人同士も、団体同士もつながっていくような、そういった場が常にそこにありますよ、というようなスタンスでいきたいなと。そういう感じにつながりをつくっていきたいなと思っています。

市長：そうですね。このNGをなくのはすごくいいことだと思います。今は、市内の公園はNGばかりですから。ボール遊びだとか、もう何をやっちゃ駄目、これもやったら駄目だというのばかりなんですけど、なるべくだったら本当はNGをなくしていくというふうなことを、一定のルールは必要でしょうから、こういう関わっていただいている人たちの中で合意形成していく。なるべくNGをなくしていこうと。

さっきもこちらのテーブルで、この時間はこのグループが占有しているから、もう絶対にここは入っちゃ駄目というふうなのが困るよねと。もう少し緩やかにお互いに譲り合って、ここは使っていないから少しボールがはみ出てもいいじゃないかというふうな、そういう形になっていくといいねという話を聞いていて、本当にそうだなと思いました。本当にいい議論をしていただいたと思います。

今日全ての結論ができるわけではないので、この車座集会をきっかけとして、これはぜひ、今後も話そう、話し合おうということになっていますので、これから議論を深めていく。今日集まっていない方

ちももう少し議論に入っただいて、仲間を増やしていくということで、この話を必ず実現させようという形で、今後も進めていっていただきたいというふうに思っています。

所長、結構大変な課題が出てきました。でも、これは、本当に皆さんの潜在的な、使えるよねということの期待の表れでもあると思うので、所長から何か決意的なもの、決意というか、受け止めというか、いかがですか。

高木所長：ありがとうございます。私はこの4月に着任して、まず思ったのが、なんだ、この汚さはと。本当に思いました。事務室だって歩くとゴコゴコというんですよ。トイレも決してきれいではないじゃないですか。全体的に暗い感じがあるし、壁にもクモの巣があったり。我々職員で、何とかできる範囲できれいにしてこうということで、時間を見つけては雑草刈りも含めて、いろいろやったりしているんです。何とか皆さんに使ってほしい。建て替えとかの話もありましたけど、やっぱりお金がかかる部分もあるので、できる範囲で皆さんがもっと使いやすく、生まれ変われたらいいかなというふうに思っています。

それはこの建物もそうなんですが、建物周りもそうなんですよね。小学校が目の前なので、小学校の皆さんともタイアップしたいなとも思いますし、バス停があるところ、あそこも通行者、歩く人とか、車椅子の方、ベビーカーとかが通りにくいと思います。

そういったものをいかに改善するか、少しでもよくするために、皆さんのお知恵を借りながら、いろいろな条件もある中でどこまでやっていけるか、なるべく早くやりたい部分はもちろんあるんですけど、時間がかかる部分もあるでしょうから、その辺りのめり張りをつけながら、少しずつでもやっていきたいと思っています。

建物の裏のほうでも、最近古いベンチを手に入れまして、今ペンキを塗っている最中です。インスタ映えするようなベンチにできればいいとか、いろんなことを企んでいます。

どうぞ皆さん、引き続きこの橘出張所、橘地区を愛していただいて、皆様方が集まっていたけるように、我々も懸命に頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

市長：ありがとうございました。

いや、最後にこのテーブルで宮寺さんがおっしゃっていたんですけど、やっぱり、どうぞと言っているだけじゃ駄目だと。企画がないと駄目だという話をされていたのを小耳にはさみましたが、これだけたくさんアイデアも出てきていますし、もっと関わる人たち、ステーキホルダーの人たちはいっぱいいるので、そういう人たちからの知恵だとか、意見だとか、あるいは自分たちはこんなことだったらできるよ、というふうな人たちもいる可能性というのはいっぱいあるので、ぜひこれを進めていただきたいと思いますし、できることからやっていこうという形で進めるのがいいんじゃないかなと思いますね。ちょっとずつみんなでもよくしていこうと。

これは役所の建物ですけど、みんなの建物なので、地域のための建物をみんなで作っていくということが大事かなと。ハード整備は役所がやることですがけれども、それ以外のソフトの部分だとか、どう活用していくかということをやって、ハードにも移していくということにしていきたいと思っています。

時間となりました。今日は御参加いただいて本当にありがとうございました。先ほど申し上げたように、今日の車座集会在まずスタートで、今後も話し合っ、この2つの拠点、それからこの2つの拠点のみならず、地域にはもっと使える場所があるんじゃないというふうに思っています、思いつく場所を書いてくださいというコーナーがアンケートにもあると思うので、こんなのもみんなでも活用できるんじゃないのというところがあれば、また教えていただければというふうに思っています。

今日の車座集会、本当にありがとうございました。では、最後は区長で締めたいと思います。

司会：はい、本日は皆さん本当に、長時間にわたってありがとうございました。今市長からお話があったように、すごく活発な意見が交わされて、私もそれを聞いていて、皆さんがすごく高津区を愛していらっしゃる、また橘地区を愛していらっしゃる、よくしたいなという気持ちを受け止めさせていただきました。ハードとソフトを合わせて、いい場所になるように一生懸命頑張っまいりますので、引き続き御協力のほどよろしくお願いたします。

それでは、以上をもちまして、第61回車座集会を終了いたします。

本日は御参加いただき、誠にありがとうございました。